

へきほんごうびー
日置本郷B遺跡

所在地 愛西市日置町本郷
(北緯35度9分50秒 東経136度43分4秒)
調査理由 県道富島津島線自転車歩行者道設置
調査期間 平成21年12月～平成22年2月
調査面積 1,100㎡
担当者 宮腰健司



調査地点(1/2.5万「弥富」)

調査の経過 調査は、県建設部海部建設事務所による県道富島津島線自転車歩行者道設置に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年12月から平成22年2月にわたり実施した。調査は、大きく日置八幡宮の西側のA区、その南のB区・C区の大きく三ヶ所に分けて行った。

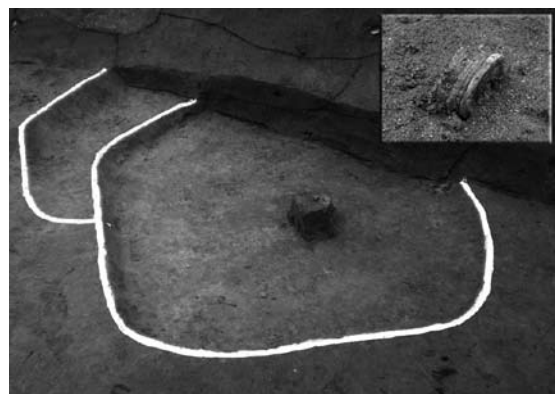
立地と環境 遺跡は木曾川の支流によって形成された砂堆微高地上に立地する。遺構検出面の標高は-2～2.4mを測るが、地盤沈下の影響などを受けていると考えられる。A区で確認された旧地形は、北部では北と西側にゆるやかに落ちる低地部があり、中央部で微高地が西に張り出して延び、南部にもゆるやかに落ち込む低地部が広がる。この南部の低地部はA区南端で浅くなって、再び微高地を形成するようで、A区付近では南北に微高地と低地部が入り組んで続く地形が想定された。

調査の概要 検出した遺構は大きく奈良時代～平安時代と鎌倉時代～室町時代の2時期に分かれる。
奈良～平安時代 遺物はA区全域から出土するが、特に微高地南部から南の低地部での出土が顕著である。微高地南部では、南北約500cm、東西約250cmの間隔で直交する、径100～120cmの土坑3基が検出され、掘立柱建物の可能性が考えられた。また南東部の025SK上位では、被熱した径40cmの砂岩礫が出土した。さらにこの南にある低地部の北端では多量の焼土・炭化物を含む落ち込みを確認している。

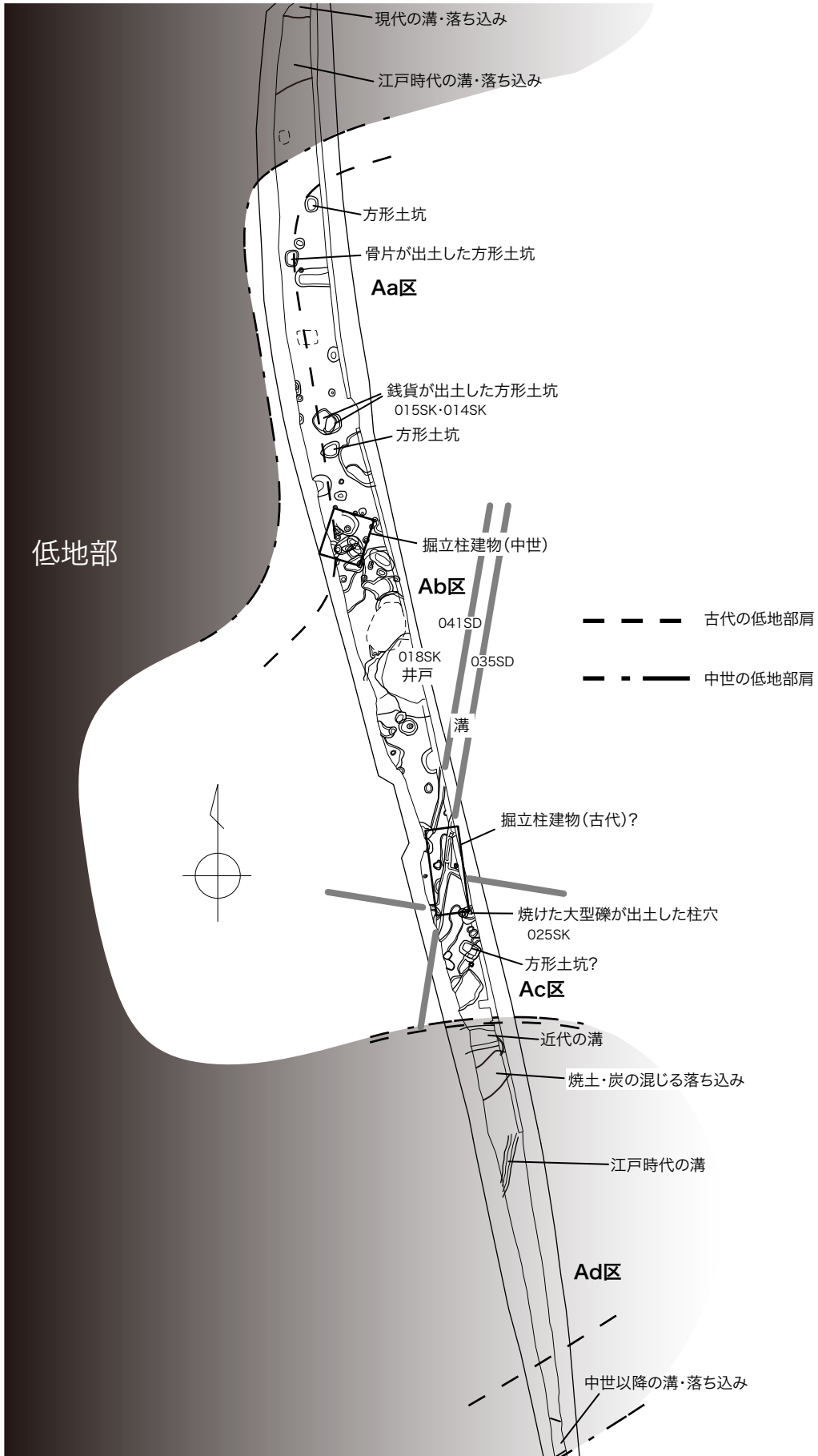
鎌倉～室町時代 微高地中央やや北で、径約270cmを測る2×2間の総柱掘立柱建物を検出した。柱穴は7基確認され、径は20～30cmを測る。この掘立柱建物の南には南北径4mの井戸018SKがある。またこの建物と方位を合わせるように北東から南西に走る2条の溝を確認した。2条のうち西側の041SDは途中で途切れ、東側の035SDは2ヶ所で直交して分岐する。また建物北側の低い部分では径100～150cmの方形土坑が5基検出された。005SKでは骨片、014SKでは12枚、015SKでは10枚の銭貨が出土しており、墓の可能性がある。(宮腰健司)



区画溝



015SK 銭貨出土状況



主要遺構配置図(1:400)